



【愚かで損するクリスチャンの生き方】

聖書：マタイの福音書5章38-48節/暗唱聖句：マタイの福音書5章16節 説教者：鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズ信仰の家族のみなさん！緊急事態宣言が続いている中一週間もみんなお元気でしたか。お変わりないでしょうか。先週よりは感染者が少しずつ減少しても、まだまだ感染拡大が治まらない状況が続いています。何よりもまた始まった今週一週間どんな状況であっても今もなお生きておられ、共におられる全能なる主の御手が共にあり、みなさんお一人お一人霊肉心身共に見守り、助け、支えて下さいますように切にお祈り申し上げます！

＜1. マタイの福音書と出エジプトの違い＞

聖書を読んでいると、我々には理解しきれない聖句に出会うときがあります。それは当然なことです。被造物である我々がどうやって神様の御心なる御言葉、聖書を全部理解し切れるのでしょうか。もしどうしても理解しがたい聖句を読んだら、それを無理やり、勝手に解けようとしなくて、どうしても理解できないなら、そのまま置いて通る時がましがあります。聖書は理解できる箇所だけ読むのにも時間が足りないほどです。まず理解できる御言葉だけでも十分恵まれる信仰の生活ができます。そうするうちに以前理解できなかった箇所も自然に分かるようになる場合がしばしばあると思います。たとえ、テストの時もまず知っている問題を解いていくべきであって初めから難しい問題で時間を取られてしまうと結局時間がなくなってしまい知っている問題さえも解かずに過ぎてしまうのではないのでしょうか。聖書を読む方法も同じです。理解できる御言葉から読んでいくのが良いと思います。

私にも理解できない聖書の箇所がたくさんあります。実は以前その中で一つが本文の御言葉でした。イエス様は旧約の出エジプトに記録された「**目には目で、歯には歯で(出21:24)**」と言われたのをあなたがたは聞いているが、あなたがたはそうしてはいけなと言われました。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！神様の御言葉は変わらない真理ですから、どんな場合にも、時代にも変えることも、変わることもありません。なのに、神様の御言葉である聖書において旧約と新約の御言葉が相反（そうはん）されるなら、それはたいした深刻な問題にならざるを得ません。しかし、ある日早朝の祈りながら、この箇所がようやく理解でき、その時喜びとは言葉には言い表せないほどでした。

ある事件が起こることには二つの種類の人に分かれます。加害者側と、被害者側です。出エジプトの御言葉「目には目で、歯には歯で(出21:24)」を一言でまとめると、**‘責任’に対する御言葉の意味です。人にあやまちを犯して被害を与えた場合、責任から逃れようとしなくて、その責任を取り負う人になりなさいということです。**反面、今日の本文マタイの福音書の内容「目には目で、歯には歯で(出21:24)」と言われたのをあなたがたは聞いているが、あなたがたはそうしてはいけなと言われたことは、**被害者側になる人々たちに‘愛と赦し’に教える御言葉の意味です。だれかが自分にあやまちを犯した時には愛をもって赦しなさいというキリストの御教えです。**

あやまちを犯した加害者たちには出エジプトの御言葉の通りに従って、自分のあやまちに対して徹底的に責任を負おうとし償い、だれかから被害を受けた人々たちにはマタイの福音書の御言葉に従って、人のあやまちを心から赦そうとするのなら、そのような人々の心には何が起こるでしょうか。そこで神の御国を味わうことが出来るのでしょうか。

神様は我々に人に対する人間関係の中、責任と愛の赦しの心を持たせるために出エジプトとマタイの福音書の御言葉を両方くださったのです。しかし、普通、人はどうですか。誰かに被害を与えた時には、徹底的な責任に対する出エジプト記の御言葉より、愛の赦しのマタイの福音書を相手に適用しながら、自身の責任よりも、相手におおめに赦しと寛大な反応を求めます！つまり、自分の間違いや過ちに対する責任からはよく避けて逃れようとする心があるのです。

反面、自分がだれかから被害を受けた時には、愛を持って寛容を示し、赦そうとせず、厳しく出エジプト記を引用しながら、相手に目には目、歯には歯で返しなさいと要求したり、相手に徹底的に責任を取るよう厳しく反応する時が多いではありませんか。

イエスキリストは、罪人である全ての人がよく自己中で、自身が被害を受け、損を受けた事に対して、相手を心から赦しがたい心と反応を持っている存在であることを御存知だったのでこの命令をくださったのです。聖書を我々は自分で勝手に読んで自己中に、自己合理化に早く、適用しようとするため、愛と恵みに満ちた神様の天国の喜び、観劇を逃がしてしまっている時はありませんか。一週間のみなさんの家庭はいかがでしたか。神の御国のようでしたか。あやまちを犯した時は自分の過ちと失敗、間違いを正直に認め、徹底的に周りの人々に責任を負うことができるクリスチャンたちとなりますよう心からお祈り申し上げます。

韓国のある執事さんから聞いた証しがあります。その方は、仕事の倒産になり、またショックで倒れて意識を失っているまま闘病中で苦しんでいた友達はもう返済ができない状態になってしまいました。借金を返すことが出来ない友達に以前自身が保証人になったため、その借金を返さなければならぬ大変な目になっておわけてしまいます。債権（さいけん）者が保証人になっていたその執事さんに友達の代わりに残りの残金を全部返すようにと要求したそうです。普通なら、友達の縁を切るか、最後まで借金を返さないようにと色々な方法で避けようとするはずでしょう。しかし、その執事さんは債権者の要求に何の文句もなく、責任をはたそうし、早速自分の住んでいた家まで売りながらも、ほとんど全

部返したそうです。その執事さんを不思議に思っていた債権者は、どうしてそこまでするのかと聞きました。その執事さんは自分が保証人になって上げなかったなら本当に良かったかも知れないが、保証人になって上げた以上、自分は、イエスキリストを信じるクリスチャンとして、保証した約束に対するその責任は、かならず担うべきであると答えたそうです。結局執事さんは、残りの少ないお金でソウル都会からの外れの小さいお家で住んだそうです。それから約10年が経ち、ソウルの町外れの所も発展し、執事さんの家のすぐそばに有名なりバーサイドホテルが立ち、土地の価値が一気に何十倍に寝あがったそうです。その執事さんは“今この家を売ると、以前売った家の2軒買っても残るほど高くなりました。”と神様に感謝しつつ、分かち合ってくださいました。

愛する信仰の家族のみなさん! もちろん、教会の中で、クリスチャン同士でお金を借りたり、貸したり、取引するのは個人的に控えるべきだと思っていますが、何か自分に責任がある時には、そこから避けようと、逃げようとせずに、素直に認め、自分の出来る全てを尽くしクリスチャンとして、目には目、歯には歯のように徹底的に責任を果たそうとした時に、この執事さんのように、神様が必ず2倍も返して下さるといふうに言いたくはありません。しかし、神様はキリスト者として、最後まで責任を負おうとする人の人生をかならず守って下さり、報いて下さることを忘れないで下さい。

<2. 私のせいです!あなたのお陰です!>

今日、この社会の問題は問題を追及する人は多いですが、責任を負おうとする人は少ないことにその問題があります。以前カトリック教会では世界的に“私のせいです!”というシールを車に貼るキャンペーンを起こしたことがあります。そのすばらしいキャンペーンにチャレンジを受けたプロテスタントクリスチャン団体では“あなたのお陰です!”というキャンペーンを行なった時もあります。我々にも本当に必要な聖書的姿勢ではありませんか。すべての人々が責任は自分のせいにし、良い成果に対して、他の人に譲ったり、あなたのおかげですと言ひ表し、人を建て上げれるなら、今よりさらにこの社会は住みやすく、美しくなると信じます。今日の社会が息苦しくなっている理由は責任は相手に持たせ、転嫁し、栄光と賞賛は自分に向けさせようとしていることではないかと思われます。

旧約聖書のヨナ書で預言者だっあヨナは激しい嵐の中の舟の中でその舟に乗っていたみんな船が沈み溺れ死にそうになっていました。ヨナ預言者は船の人々にこう言いました。「ヨナは彼らに言った。「私を抱(かか)え上げて、海に投げ込みなさい。そうすれば、海はあなたがたのために静かになるでしょう。私は分かっています。この激しい暴風(ぼうふう)は、私のせいであなたがたを襲(おそ)ったのです。」(ヨナ書1:12)ヨナ預言者は自分のあやまちを否定せず、自分の罪と間違いを正直に認めています。そして、他の人々を守り、救うため自分がどんな犠牲を払ってもちゃんと責任を取ろうとしながら、自分を海に投げ捨てようとしている姿でした。

どれほど徹底した責任感でしょうか。ヨナにたくさんの人間的な欠陥と問題があったのにもかかわらず、彼が神の人として選ばれたのはこのように神様と人々の前で徹底した責任感と関係がないと言えないと思います。

神様は自分のあやまちを正直に認め、他の人々に目には目で、歯には歯で返そうとして人を喜んでくださいます。実は、それが、真の悔い改めであり、徹底的な悔い改めではありませんか。神に赦され、誠に回復され、さらに用いられる真の悔い改めは、いつも神様に正直に認め、人に過ちを犯した場合には、責任を持って償う行いが伴わなければなりません。どんなことでも神様の御前で正直になり、責任を負うことのできるクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。

<3. 愚かで損するクリスチャンの具体的な愛の行いと生き方(39~48節)>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!

イエス様は我々に「だから、あなたがたの 天の父が完全であるように、完全でありなさい。」(48節)と言われました。ここで完全(テレイオス)という言葉の意味は、決して完璧になりなさいという意味じゃありません。成長され、成熟されて欠如のない、欠けたところがない生き方(神の子どもらしく、キリストの似姿になる)を言います。

われらに先に模範として、すべての罪の代価と責任を十字架の上で果たしながら、愛の模範を示して下ったイエスキリストの模範を我らは覚えなければなりません!「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは 御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。ヨハネの福音書(John) 3章16-17節」

「さて、過越の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知られた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された(その愛を残るところなく示された)(ヨハネの福音書13章1節)」

この世にはなかなかこのような愛も赦しも、寛容も少ないため、我々の社会と家庭と教会までも益々せちがらい世になっているのではないのでしょうか。

自分があやまちを犯すと責任を負い、人があやまちを犯すと愛と寛容を持って接し、赦してあげる姿は、たしかに世の人々の目では、愚かで、損する人生にしか見えないかも知れませんが、しかし、これがまさにキリスト者(クリスチャン)の生き方ではありませんか。みなさんもだれかがみなさんにあやまちを犯した時、心から赦す人になりますように切に願

っています。実際、だれかが自分にあやまちを犯した時、愛を持って赦し、またチャンスあげることは決してたやすい事ではありません。しかし、神様は我々にそのように生きることを願っておられ喜ばれるお方です。そして、今日の本文39節—48節まで、イエス様は具体的に愛を持って赦すだけで止まらず、もっと積極的に助けが必要な者たちをかえりみて、助け、愛を行う者になることを望んでおられることが分かります。

マタイの福音書25章31節—46節には、この世を裁くために栄光の中、再び来られるイエスはすべての国々の民を集め、まるで羊飼いが羊と山羊を分けるように彼らをより分けるとおっしゃっています。羊飼いが檻（おり）に入れる時、表では似てる羊と山羊とをちゃんと分けて入れるように、裁きの時にも永遠の命を持って入れる天国に入れる者と永遠の死である地獄に入れる者を見分けられることを語り、約束して下さっています。

マタイ25章34～36節には、神の御国に入れる右の羊側に立っていた人々についてこう書かれています。

「34それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられた御国を受け継ぎなさい。35あなたがたは、わたしが空腹であったときに（わたしに）食べる物を与え、わたしが渴いていたときに（わたしに）飲ませ、旅人であったとき、（わたしに）宿を貸し、36わたしが裸のときに（わたしに）服を着せ、病気をしたときに（わたしを）見舞い、牢にいたときに（わたしを）訪ねてくれたからです。』」

このような主のお言葉に対して右側にいる人たちは“私たちがいつそんなことをしたのですか。”と尋ねます。すると、主からは40節で「すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』」とおっしゃいました。

愛するみなさん、ここで‘最も小さい者たち’はだれを言うのでしょうか。彼らは飢えている者、のどが渴いた者、自分の住まいがない旅人、病気にかかった人、そして罪を犯し、牢に入れられた者などだと言えるでしょう。これをまとめて見ると、このような人々たちはみんなだれかの愛の助けと支えが必要としている全ての人たちである事が分かります。

こういうわけで古代教会（2世紀～7世紀）の教父と呼ばれた有名な神学者たちであったタティアノスとクレメンスという方はこの御言葉に対して“あなたがたの助けを必要としている兄弟姉妹を見た時、それはあなたの前に立てておられる主を見ている時だ！”と主張してた理解と解釈は私もとても同意し、正しいと思います。

ですから、イエス様と同一されているこの‘もっとも小さい者たち’というのは今誰かの愛の仕えと助けが必要な状態になっているすべての人たちであることが分かります。

主の右側に立たされた人たちはそのような人々のために、惜しまずに愛を分け与え、助けてあげたクリスチャンとしてまるで、当たり前だったかのようないつもの神の前でそのような生き方を持っていた人たちであることが分かります。いつも自分の利益などより、計算せず惜しみなく、愛の助けが必要である人たちなら、だれにでも犠牲を払って愛をもって仕えて来た人生と生き方を送って来たので、キリストの裁きの時に却って主にほめられながら、神様が共におられる神の御国に入られたことが分かります！

ところが、山羊の左側の永遠の死である地獄に入れる者たちはどうでしたか。41節では「それから、王は左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れ、悪魔とその使いのために用意された永遠の火に入れ。』とイエスキリストから厳しく語りながら、その理由について42-43節はこう書かれています。「42おまえたちは、わたしが空腹であったときに食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、43わたしが旅人であったときにも宿を貸さず、裸のときに服を着せず、病気のときや牢にいたときにも訪ねてくれなかった。』」と指摘されました。その人たちには分け与える物があんまりなかったようには見えません！すべての物の主人が神様ではなく、まるで自分かのように、すべての事に相変わらず、自分が主人となって、自己中心的に自分のためにしか使わなかった人たち、まるで、主から十分な物を預かっていても、主人の御言葉とか喜ばれる御心には従って使う気も、関心もなく、ただ自分のためにしか使わなかった者たちでした。

その時、地獄に入ることに主から定められた者たちが44節に主に訴えます。

「すると、彼らも答えます。『主よ。いつ私たちは、あなたが空腹であったり、渴いていたり、旅人であったり、裸でいたり、病気をしていたり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』」

ここで「世話をする」という言葉はギリシャ語で「ディアコネオ」と言って「奉仕する、仕える」という意味の言葉であります。この意味として見ると、彼らが地獄に落ちてしまった理由は助けが必要な人々に助けられなかった、仕えられなかったから（愛の実践と仕え）であることが分かります。

まるで、この世でもっとも小さい者に仕える事が神の永遠の御国に入れるか、それとも地獄に落ちて永遠の罰を受けるかが決められるように教えて下さっているように見えますが、どんな意味でしょうか。

イエスキリストが語り教えられた、このたとえ話の御教えは天国に入れるための条件としての愛の仕えと助け、愛を分かち合う奉仕の行いではなく、神の御国に入れる真の信仰を持っている人々の行いと生き方に表される行いと生き方の結果！真の信仰を持って信じている人々が結ばれる来る愛の生き方、その信仰の実と結果として理解すべきであります。

そして、新約聖書ヤコブの手紙2章14-17節も一緒に読んで見ましょう。

「私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行ないがないなら、何の役に立つでしょうか。」

そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。15兄弟か、姉妹に着る物がなく、また、毎日食べ物にも事欠いているようなときに、16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹になるまで食べなさい」と言っても、からだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。17 同じように、信仰も行ないが伴わないなら、それだけでは、死んだものです。」

ジョン・カルベンという偉大な神学者は彼が書いた「キリスト教綱要（こうよう）」にて次のように適切な理解をさせてくれています。「キリストはすべての人々に自分たちの行為に従って報いて下さる。なぜなら、各人は自分の行為によって自分がまことの信者であるか、未信者であるかを証明されるからだ。」

愛するキリストイエスにある神の家族、信仰の兄弟、姉妹のみなさん！

今主の御前で静まって自分自身を振り返って見て下さい。今まで我々はまったく罪と過ちのおかしたことの無い神の御子イエスキリストが罪の中にいた我らを救いのために、その罪のすべての代価と責任を果たすために、十字架上で住盾をささげてくださったのではありませんか。それによって我々は、返すことが出来ない一万タラントほど全罪の借金を帳消（ちょうけ）しされた人生となられたことを聖書は明確に教えてくださいます。しかし、自分はあんなにたくさんものを赦され、帳消しされたのに、人が自分に百デナリぐらいの借金の人を赦さず、苦しくさせようとする生活をするなら、我々はどうやってキリストの者だと言えるのでしょうか。私たちは毎日神様に“我々に罪を犯した者を我々が赦したように、我々の罪をも赦して下さい。”と祈り実践する者たちです！こう祈りながら、人のあやまちと失敗は心から赦せないなら、どうやって神様に自分たちの罪とあやまちを赦してくださるように求めることができるでしょうか？

結論的に、自分のあやまちは徹底的に責任を負い、人のあやまちと失敗は心から赦してあげるクリスチャンになりますように心から祝福します。その時こそ、成熟したクリスチャンの当然の聖書的な信仰の姿勢であり、心構えであり、生き方なのです！

まだ未熟な人は自分に寛大しながら、他の人たちにはいつも厳しく教え、指導しようとしています。人のあやまちと責任は追及しながら自分のあやまちと責任を軽く思ったり、否定したり、逃げようとするなら、それはイエスキリストに偽善者だと叱られたパリサイ人たちや異邦人のように神様を知らない、未信者の人の生き方と違いがない生き方でしょう。今日のメッセージを通して、みなさんはどう教えられましたか。

自分が間違った時は出エジプトを読みながら、目には目、歯には歯で償いをし、返す生き方を、人が自分にあやまちを犯した時はマタイの福音書を読みながら、心から赦し、愛と寛容を表し積極的にい人になりますように切にお祈り申し上げます。このような歩みはきっとこの世の人々の目には愚かで、損になる人生のように見えるかも知れませんが、逆に成熟され、イエスキリストと似た者の真のキリストの弟子たちの姿だと信じます。緊急時代宣言の中是非みなさんの周りや教会の家族、牧場の家族中、職場の中、愛の助けが必要としている人々が関心を持って分け与える愛の生き方を実践されるみなさんとなりますように祝福を祈ります。この信仰と愛の行き方によって、みなさんお一人お一人が始まった今週中にも、9月中にも家庭、教会、社会が神の愛と祝福がみなさんの愛の生き方を通して満たされる源となりますように切にお祈り申し上げます。益々信仰と愛の行いの面において完全な、成熟されたキリスト者となっていくために、キリストの愛と赦しの恵みがみなさんの上に豊かに注がれますように切に祝福しお祈り申し上げます。アーメン！